

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
大原簿記法律専門学校 福井校	昭和55年3月28日	赤星 哲志	〒910-0005 福井県福井市大手2-9-1 (電話) 0776-21-0001				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 大原学園	昭和54年4月1日	安部 辰志	〒101-0065 東京都千代田区西神田1丁目2番地10号 (電話) 03-3291-7981				
目的	法律および行政に関する専門教育を施し、一般的に公務員として求められる、法律知識、防災知識などを修得し、人格の陶冶を行い、自立した社会人の育成を目的とする。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務関係 専門課程	法律行政科 Ⅲ種初級事務系コース	平成22年文部省 告示第153号	-			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,040	1,720	200	120	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
80人	40人 の内数	5人 の内数	1人 の内数	6人 の内数			
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 優、良、可、不可の4種 定期試験		
長期休み	■学年始:4月上旬 ■夏季:7月下旬～8月下旬 ■冬季:12月下旬～1月上旬 ■学年末:3月下旬			卒業・進級 条件	1,700授業時間数以上履修し、かつ その該当する所定の授業科目について 合格に達した者		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 担任を中心に本人・保護者へヒアリング・指導 を行い、問題を1つずつ解決しながら、学校 へ復帰できる環境作りを行っている。			課外活動	■課外活動の種類 全日本電卓競技大会 運動系クラブ活動 ■サークル活動: 有		
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 各種国家公務員、各地方自治体など ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 75.5 % ■その他 進学、再受験 (平成 28 年度卒業者に 平成29年3月31日 時点の情報)			主な資格・ 検定等	一般教養力検定、漢字検定、 電卓検定		
中途退学 の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 3.1 % 平成28年4月1日時点において 在学者 97名 (平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において 在学者 94名 (平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 経済的事情、進路変更など ■中退防止のための取組 中途退学の兆しとして、欠席・遅刻・早退の増加、授業への集中力の欠如及び検定試験への 受験意欲の低下などに現れる。よって、以下の内容を防止策として取り組んでいる。 (1) 欠席等の防止 一定の欠席累計到達者に対する面談による改善指導など (2) 学習に対する意欲低下 目指す職業に就くためへのカリキュラム(検定試験含む)の必要性を説明するガイダン スなどを定期的実施にしている。 (3) その他 学校行事などの運営(運動会・球技大会・研修旅行)						
ホームページ	http://www.o-hara.ac.jp/hokuriku/senmon/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

①卒業生の主な就業先である国家公務員・地方自治体に関する有識者である大字や企業と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。

②法律行政分野における学修の中心となる法律、基礎教養力、計数能力、トレーニングは勿論のこと、行政の仕組み、コミュニケーション技術や職種別の専門知識などの教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。

③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

①位置づけについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育課程編成にも活用していく。

②意思決定の過程について

(ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。

(イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。

(ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。

(エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、副校長、教務部長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年3月31日現

名前	所属	任期	種別
高畑 一郎	大原学園 教育課程本部 副本部長		
中野 信男	大原学園 情報処理教育本部 本部長		
堤 敦	大原学園 就職本部 本部長		
羽深 義輝	大原学園 簿記ビジネス教育本部 本部長		
村田 美保	大原学園 医療教育本部 本部長		
児玉 紀裕	大原学園 法律教務本部 本部長		
八木 真博	大原学園 法律教務本部 教務部 次長		
櫻本 正樹	東洋大学 法学部長	平成27年4月1日～平成29年3月31日	②
嶋田 芳男	学校法人東京家政学院 東京家政学院大学 人間福祉学科 准教授	平成27年4月1日～平成29年3月31日	③
大塚 良一	学校法人東京成徳学園 東京成徳短期大学 幼児教育科 教授	平成27年4月1日～平成29年3月31日	③
岡田 智則	岡田行政書士事務所	平成27年4月1日～平成29年3月31日	③
赤星 哲志	大原簿記法律専門学校福井校 校長		
小倉 豪円	大原簿記法律専門学校福井校 副校長		
光照 良浩	大原簿記法律専門学校福井校 教務部長		
成田 裕行	大原簿記法律専門学校福井校 教務課長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催する。

第1回:「前年度教育成果の振り返り」

第2回:「今年度の課題整理と次年度以降教育内容の見直し」

(開催日時)

第1回 平成28年5月13日 15:30～17:00(地方会) 平成28年5月21日 13:30～15:00(本部会)

第2回 平成28年7月15日 15:30～17:00(地方会) 平成28年7月23日 11:00～12:00(本部会)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ①「社会科学Ⅱ(経済)」の先行導入が必要との意見を頂き、実施の運びとなった。また「専門学校生におけるPCスキルの有用性」に関するご提言、ご意見を頂いた。PCスキルについては、公務員に限らず「就職」するにあたっては、必ず必要となるスキルであるため、今後も継続実施を求める等の意見を頂いた。
- ②上記①については、上述のとおり、「社会科学Ⅱ(経済)」において頂いた活用方法を取り入れ、カリキュラムに反映することとなった。
- ③新たに上がる提言に関しては、今後開催される委員会にて確認を行い、次年度以降も継続して教育課程の編成を実施していく予定である。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①法律行政分野における実習・演習は、教育社会福祉分野、工業分野等の分野と異なり、企業等との連携の下、学内で行われる学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組立を行う。
- ②企業等との連携による実習・演習を通じて、学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ③企業等から実習・演習の授業内容、手法に関する具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

法律、経済、行政の仕組み、授業運営に関して企業等と協定書を締結、打ち合わせを行い、下記4点について講義内容の質向上のために連携している。

- ①実習授業内容構築へのサポート
- ②当該実習授業における評価ポイントの確認
- ③授業方法に関する教員への指導
- ④学生の学修習熟状況の評価

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
社会科学Ⅱ(経済)	官公庁の運営において、「財政」は切り離せない問題である。その財政を理解する上で、需要と供給や市場メカニズム、通貨制度などを理解することは必要不可欠である。公務員を目指すに当たり、経済そのものを大局的に学び、経済のしくみを理解することを目的とする。 また、国際経済の動向の学習を通じて、日本が現在置かれている世界的な経済的立ち位置を理解し、日本の国際的な経済的役割も習得する。	日本大学

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。

- ①教育課程編成委員会に参画する児童福祉施設等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
- ②大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
- ③学内に設置される附帯教育講座を利用した自己啓発

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

- 日本大学による教養経済に関する実務的知識および講義ポイントに関する研修 平成28年3月
- 藤木新生法律事務所による政治に関する知識および講義ポイントに関する研修 平成28年3月

②指導力の修得・向上のための研修等

- 日本大学による教養経済および経済学の利用方法、考え方を理解したうえで、指導力の向上および指導方法の改善を図る教員研修会 平成28年3月
- 藤木新生法律事務所による政治に関するポイントを踏まえた、指導力の向上および指導方法の改善を図る研修 平成28年3月

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- 日本大学による教養経済に関する実務的知識および講義ポイントの研修 平成29年3月
- 藤木新生法律事務所による教養政治に関する実務的知識および講義ポイントの研修 平成29年3月

②指導力の修得・向上のための研修等

■西武文理大学による研修にて、官公庁・企業内での研修内容を学び、実務を理解したうえで指導力の向上および指導方法の改善を図る教員研修会の開催・・・平成29年3月
 ■藤木新生法律事務所による政治に関するポイントを踏まえた、指導力の向上および指導方法の改善を図る研修 平成29年3月

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2) 学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑤授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑥育成目標に向け授業を行う事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑦成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑧資格取得の指導体制はあるか。
(4) 学修成果	①就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5) 学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援が整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。

(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
今年度は下記について特にご意見をいただいた。

①就職教育の充実

②資格取得率の向上と実践的な知識習得

③保護者との連携強化

評価委員会後、下記のとおり教育活動を改善している。

①については、個人面談の継続実施や性格診断テストの継続実施を通じて、学生個人の資質・適性及び能力を把握し、即戦力として活躍できる人材育成を行う教育プログラムの作成に取り掛かっている。また、学校行事等で他分野の教職員・学生との交流によるコミュニケーション能力の向上、社会性の向上などをはかれるよう、教育プログラムの作成に取り掛かっている。

②については、できるだけ実社会に対応した教育を常に意識し、指導していくことが必要である。そのために企業、社会が求めている能力を時代とともに察知するとともに、知識習得、研究を行い教員の指導力向上を進めるよう、業界、団体等の講習会などへの参加を奨励する。

③については、現在行っているメール配信や月次報告の発送などを継続の上、教育に対する更なる理解浸透を図るための連携強化策を検討し始めている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
北川 康行	税理士法人 合同経営会計事務所	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員
西田 誉	青山商事 株式会社	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員
岡田 智則	岡田行政書士事務所	平成27年4月1日～平成29年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <http://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 平成28年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。

②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。

③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先 ④学校の沿革
(2) 各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格 ②所在地、連絡先 検定試験
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学修や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7) 学生納付金・学修支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生の募集
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 法律行政科 Ⅲ種・初級事務系コース) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			漢字	実社会において漢字の意味を含め実践的に通用する使い方を習得	2 ①	40			○		○	○			
○			ビジネス基礎	社会人としての基本的なマナーを習得	2 ① ②	80		○			○	○			
○			パソコン基礎	パソコン(ワード・エクセル)の操作技能及びビジネス文書の作成方法	2 ③	80				○	○	○			
○			ビジネス実務法務	実社会で必要となる法律に関する知識を習得	2 ③	40		△	○		○	○			
○			文書表現	実務で必要とされる書類作成能力を習得	2 ③	40			○		○	○			
○			国語	口語文法および敬語の使い方、日本文学史概論	1 ③	40		○			○	○			
○			文章理解	文章読解力を身につけるための基礎的知識の習得と実践	1 ① ③	40		○			○	○			
○			数的推理	「速さ」、「仕事算」、「場合の数」などの基礎的な問題の解法習得	1 ① ③	40		○			○	○			
○			判断推理	「論理」、「順序」、「対応」などの基礎的な問題の解法習得	1 ① ③	40		○			○	○			
○			社会科学Ⅰ(政治)	「基本的人権」や「統治機構」など日本国憲法に関する知識の習得	1 ① ③	40		○			○	○			
○			社会科学Ⅱ(経済)	「国民経済計算」、「市場メカニズム」など経済学の基礎知識の習得	1 ①	40		△	○		○	○		○	
○			人文科学Ⅰ(日本史)	古代から現代までの日本の政治の変遷に関する基礎知識の習得	1 ① ③	40		○			○	○			
○			人文科学Ⅱ(世界史)	古代から現代までの世界情勢の変遷に関する基礎知識の習得	1 ① ③	40		○			○	○			
○			人文科学Ⅲ(地理)	「自然地理」、「人文地理」、「統計」などの基礎知識の習得	1 ① ③	40		○			○	○			
○			自然科学Ⅰ(物理)	物理(運動の表現、エネルギー)の基礎知識を習得	1 ② ③	40		○			○	○			
○			自然科学Ⅱ(化学)	化学(物質構造や化学反応)の基礎知識を習得	1 ② ③	40		○			○	○			
○			自然科学Ⅲ(生物)	生物(生命現象や恒常性、生体反応)の基礎知識を習得	1 ② ③	40		○			○	○			
○			自然科学Ⅳ(地学)	地学(地球内部・大気・海洋・宇宙の構造)の基礎知識を習得	1 ② ③	40		○			○	○			

○	自然科学Ⅴ(数学)	「方程式」、「関数」などの基礎的な問題の解法習得	1 ③	40	○		○	○		
○	法学概論	法の解釈、代表的な法律などの基礎知識	1 通	40	△	○	○	○		
○	憲法Ⅰ(総論・人権)	憲法のしくみや日本国憲法などの基礎知識	1 ① ②	80	○		○	○		
○	憲法Ⅱ(統治機構)	統治機構に関する総合知識	1 ①	80	○		○	○		
○	民法Ⅰ(総則)	総則に関する総合知識	1 ②	40	○		○	○		
○	民法Ⅱ(物権)	物権に関する総合知識	1 ②	80	○		○	○		
○	民法Ⅲ(債権総論)	債権に関する総合知識	1 ②	40	○		○	○		
○	民法Ⅳ(債権各論)	債権に関する応用知識	1 ②	40	○		○	○		
○	民法Ⅴ(親族相続)	親族相続に関する総合知識	1 ③	40	○		○	○		
○	憲法特講	憲法に関する総合問題演習	2 ①	80	○		○	○		
○	民法特講	民法に関する総合問題演習	2 ① ②	80	○		○	○		
○	行政法	行政法の内容、行政課程論などの基礎知識	2 ②	80	○		○	○		
○	基礎法学	法学に関する基礎知識	2 ① ③	40	○		○	○		
○	経済事情	経済事情に関する総合知識	2 ② ③	40	○		○	○		
○	個人情報保護法	個人情報保護法に関する総合知識	2 ② ③	40	○		○	○		
○	国際関係	外交、安全保障、経済関係に関する知識	2 ①	40	○		○	○		
○	財政学	財政理論、財政政策などに関する総合知識	2 ① ②	40	○		○	○		
○	会社法	会社の設立、運営、管理などに関する法律の知識	2 ②	40	○	△	○	○		
○	政治学	政治学の基礎概念、政治過程論などの基礎知識	2 ②	40	○		○	○		
○	行政学	行政国家と福祉国家、行政組織などの基礎知識	2 ②	40	○		○	○		
○	経営学	近代組織論、経営戦略論などの基礎知識	2 ③	40	○		○	○		
○	社会学	社会学史、社会学の基礎概念などの基礎知識	2 ③	40	○		○	○		

○		一般トレーニング実技	トレーニング機材を使用した筋力トレーニングの習得	2 通	40				○	○	○		
	○	OA基礎概論	パソコンの基礎知識及び操作技能に関する知識	2 ② ③	40		△		○	○	○		
	○	金融商品論	株式、債券、金利、為替、金融リスクに関する知識	2 ② ③	40		○		○	○	○		
合計			43科目	2040単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>(試験)</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって、これを定める。 ただし、授業科目によってはその他の方法で査定することができる。</p> <p>2. 試験には定期試験、追試験および再試験等がある。 追試験はやむを得ない事故等により定期試験を受けなかった者に対して行い、再試験は受験の結果、不合格となった者のためにこれを行う。</p> <p>3. 追試験および再試験は、本校において必要と認めたとときに限り、これを行う。</p> <p>(学業成績)</p> <p>学業成績の判定は優、良、可、不可の4種をもってこれを表し、 優は80点以上、良は60点以上、可は50点以上、不可は49点以下とし、 優、良、可を合格、不可は不合格とする。</p> <p>(卒業)</p> <p>本校に在学し、下記に定める授業時数以上履修し、 かつ、その該当する所定の授業科目について 各学年末における試験に合格して卒業資格を得た者には、卒業証書を授与する。 ・法律行政学科2年制は1,700時間</p> <p>(履修：必修)</p> <p>社会科学Ⅱ(経済)は必修科目として、全学生が必ず履修するものとする。</p>	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。